

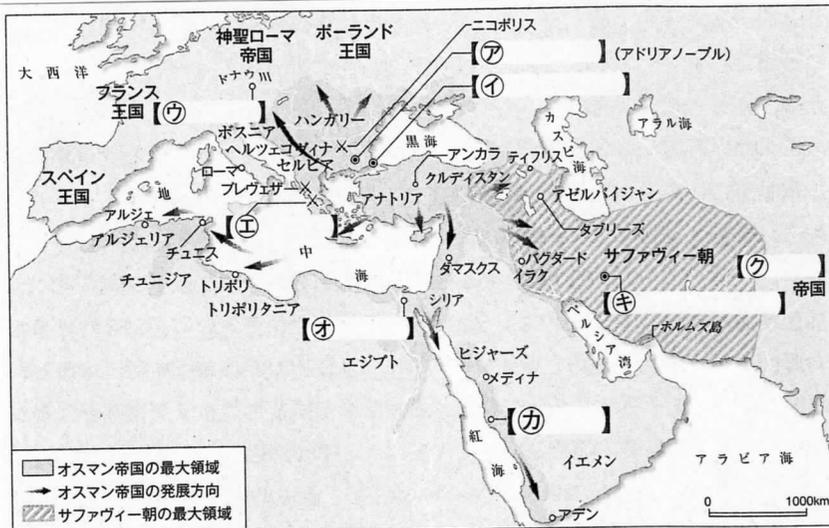
□サファヴィー朝の興隆 (教科書 P.196)

1. 空欄を埋めながら教科書を読んでみよう。

サファヴィー朝の興隆 ティムール朝が衰えたのち、イランでは神秘主義教団の長①が武装した遊牧民の信者を率いて②を占領し、③朝を開いた。この王朝は、成立当初は統一あるイラン国家ではなく、主要な地域を遊牧民の長が支配する遊牧国家であった。しかし、③朝は建国後、国内統一のために④派(とくに⑤派[シーア派の主要宗派で、イラン・イラクに多くの信徒がいる。12代目の「隠れイマーム(指導者)」がいつか再臨して、この世に正義を実現してくれるとする思想をもつ])を国教とし、古代以来イランの王を意味する⑥の称号をもち、イラン人の民族意識の高揚につとめた。

サファヴィー朝は、⑦のときに最盛期を迎えた。彼はオスマン帝国とたたかって領土の一部を取り返し、ポルトガル人をホルムズ島から追放した。さらに新首都⑧を建設して、美しいモスク・学院・庭園などでこの首都をかざり、「イスファハーンは⑨」といわれるほどの繁栄をもたらした。イランがはじめてヨーロッパ諸国と外交・通商関係を結んだのも、⑦の時代であった[この時代以降、イラン産の⑩は、ヨーロッパの市場へ運ばれ、高価な商品として扱われた]。その後サファヴィー朝はしだいに衰え、オスマン帝国に再びイラクを奪われたが、この王朝のもとで建築・美術・工芸に代表されるイランの芸術は最高度の発達をとげた。

2. 地図で確認しよう。(教科書 P.195)



地図 オスマン帝国とサファヴィー朝の最大領域

3. 内容をまとめよう。

⑥ サファヴィー朝の興隆

(1) 建国

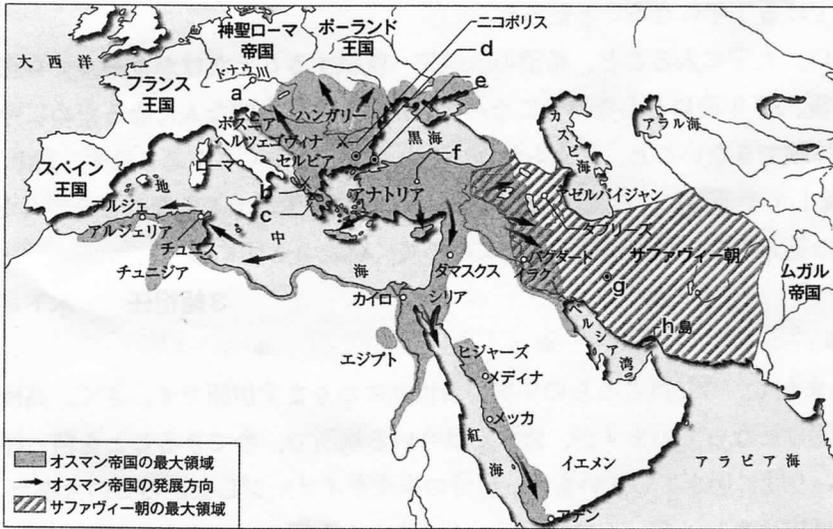
- a 神秘主義教団の長(26)が建国(1501), 首都:(27)
- b (28)派(十二イマーム派)を国教とし, 伝統的な(29)の称号をもちいて
イラン民族意識高揚につとめる→遊牧国家に統一性をもたせる

(2) 最盛期…(30)(在位1587~1629)の時代

- a オスマン帝国から領土の一部を奪回, (31)人をホルムズ島から追放
- b 新首都(32)を建設→「(32)は世界の半分」といわれる繁栄
- c イランとしてはじめてヨーロッパ諸国と外交・通商関係を結ぶ

(3) 文化…建築・美術・工芸などイラン芸術が最高度に発達

整理



- 26
- 27
- 28
- 29
- 30
- 31
- 32
- a
- b
- c
- d
- e
- f
- g
- h 島

第7章 アジア諸地域の繁栄 4 ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展

□ムガル帝国の成立とインド=イスラーム文化の開花 (教科書 P.197)

1. 空欄を埋めながら教科書を読んでみよう。

ムガル帝国の成立とインド=イスラーム文化の開花

16世紀にはいると, 中央アジア出身のティムールの子孫① [支配者としてすぐれていただけでなく, ペルシア語やアラビア語の教養も深く, 彼の回想録である『②』をはじめとする作品でも知られている]が, カブルを本拠にして北インドに進出しはじめた。バーブルは, 1526年の③の戦いでデリー=スルタン朝最後の④朝の軍に勝利をおさめ, ⑤帝国の基礎を築いた。帝国の実質的な建設者は第3代皇帝⑥である。⑥は支配階層の組織化をはかり, 維持すべき騎兵・騎馬数とそれに応じた給与によって彼らを等級づけ, 官位を与えた[この制度は, ⑦

▶「世界史B」の教科書に対応しています。
 ▶計画的に取り組み、次回登校日に地歴準備室前に提出し、次の課題を取って帰ること。

第7章 アジア諸地域の繁栄 3 トルコ・イラン世界の展開

□ティムール朝の興亡 (教科書 P.192)

1. 空欄を埋めながら教科書を読んでみよう。

ティムール朝の興亡

14世紀半ば頃、中央アジアのチャガタイ=ハン国は東西に分裂した。①.....チャガタイ=ハン国出身の②.....は、1370年に②.....朝を開き、西トルキスタンを統一したのち、西進して③.....国が滅亡した後のイランからイラクにいたる領土をあわせた。その間、ティムールは北方のキプチャク=ハン国や南方の北インドに侵入し、のちにはアナトリアにも攻め入って④.....の戦い(1402年)でオスマン軍を破り、⑤.....を捕虜とした。さらに明を討伐しようとして東方遠征に出発したが、その途中病死した。ティムールの死後、ティムール朝は分裂と統合をくりかえし、やがてトルコ系の遊牧⑥.....に滅ぼされた。

ティムールがイラン人の世界とトルコ人の世界を統一したことにより、イル=ハン国で成熟をとげたイラン=イスラーム文化が中央アジアに伝えられ、⑦.....=イスラーム文化として発展した。首都⑧.....には壮大なモスクや学院が建設され、14~15世紀には中央アジアの商業・学芸の中心として繁栄した。ティムールや彼の子孫は学芸を好み、宮廷ではイラン文学や⑨.....の傑作がつくられたほか、すぐれたトルコ語の文学作品もあらわれた。また、⑩.....が建設した天文台を中心に天文学や暦法も大いに発達した。

2. 内容をまとめよう。

	① ティムール朝の興亡
.....	(1)建国
1.....	a 14世紀半ば頃、(1)国が東西に分裂
2.....	b 西(1)国出身の(2)がティムール朝を開く(1370)
3.....	c 首都:(3)
.....	(2)発展と衰退
4.....	a 西トルキスタンを統一→西進して(4)国滅亡後の領土をあわせ、キプチャク=ハン国や北インドに侵入
5.....	b (5)の戦い(1402)でオスマン軍を破り、(6)を捕虜とする
6.....	c 明討伐の東方遠征の途中に病死→(2)の死後、領域は東西に分裂
7.....	d トルコ系の遊牧(7)に滅ぼされる(1507)

.....

 8.....

(3)トルコ=イスラーム文化

- a イラン=イスラーム文化が中央アジアに伝わって成立
- b (3)に壮大なモスクや学院, 中央アジアの商業・学芸の中心として繁栄
- c 宮廷でイラン文学や細密画がつくられ, トルコ語の文学もあらわれる
- d 第4代の(8)が天文台を建設, 天文学・暦法も発達

□オスマン帝国の成立と発展 (教科書 P.193)

1. 空欄を埋めながら教科書を読んでみよう。

オスマン帝国の成立と発展 セルジューク朝期からビザンツ領内に進出して
 いたトルコ人は, 13世紀末頃アナトリア西北部に
 ①..... 帝国の基礎をきずき, やがてバルカン半島に進出して②.....
 (現在のエディルネ)を首都にした(1366年)。1396年,
 バヤジット1世は③..... の戦いでバルカン諸国とフランス・ドイ
 ツの連合軍を撃破したが, その後, アナトリアに進出したティムールと衝突し大敗
 を喫した。しかし国力を回復させた④..... は, 1453年コンス
 タンティノーブルをおとし入れ, ついに⑤..... 帝国を滅ぼした[このと
 きコンスタンティノーブルに首都が定められ, これ以後⑥..... という呼
 称が一般化した]。
 その後⑦..... は, 新興のサファヴィー朝を破ったのちシリアへ
 進出し, 1517年には⑧..... 朝を滅ぼしてエジプトをあわせた。そ
 の結果, それまでマムルーク朝の管理下にあった⑨..... (メッカとメディ
 ナ)の保護権を手に入れ, 以後オスマン帝国のスルタンは, カリフ政治の後継者
 として⑩..... 派イスラーム教を守護する中心の存在となった[このとき, オスマ
 ン帝国のスルタンはカリフ位を継承し, スルタン=カリフ制が成立したとの説もあるが, これは18
 世紀になってスルタンの権威を強化するためにつくられた虚構である]。
 オスマン帝国は, ⑪..... のもとで最盛期を迎えた。彼
 はサファヴィー朝から南イラクを奪い, 北アフリカにも支配を広げたばかりでなく,
 ハンガリーを征服し, 1529年には⑫..... を包圍してヨーロッパ諸国に
 大きな脅威を与えた。さらに38年には⑬..... の海戦でスペイン・
 ヴェネツィアの連合艦隊を破り, 地中海の制海権を手中にした。つぎの⑭.....
 は, スレイマン1世時代の慣習に基づき, フランス商人に領内での居
 住と通商の自由をおおやけに認めた(69年)。これを⑮.....
 という[この特権は, のちにイギリスやオランダにも与えられたが, 18世紀末から
 オスマン帝国が衰退期を迎えると, ヨーロッパ諸国はこの特権を利用してオスマン帝国領内に権益
 を拡大するようになった]。その後, ⑯..... の海戦でスペインなどの連合
 艦隊に敗れたものの, オスマン艦隊はいぜんとして東地中海を自由に航行し, 17世
 紀末まで, オスマン帝国とヨーロッパ諸国との力関係に大きな変化はなかった。
 オスマン帝国の⑰..... は, 強大な権力をもつ専制君主であったが,
 ⑱..... に基づく政治をおこない, 州・県・郡にわかれる整然
 とした行政機構をととのえた。一方, 帝国内に住むキリスト教徒やユダヤ教徒の共

同体(19))には、法に定められた自治を認め、イスラーム教徒との
共存がはかられた。

スルタンの軍隊は、(20) [スルタンから与えられた土地からの徴税権
を意味する。この(20) 制はイクター制を継承した制度であり、軍事奉仕の
代償として騎士たちに与えられた]を保持する騎士軍団と(21) 軍
団とからなっていた。とくに(21) 軍団は、バルカン半島の
征服後、キリスト教徒の子弟を強制的に集めて編制した歩兵軍団であり、スルタン
の常備軍として、ヨーロッパやアジア各地の征服に活躍した。

2. 内容をまとめよう。

② オスマン帝国の成立と発展

(1)建国…1300年頃、トルコ人がアナトリア西北部に帝国の基礎をきざく

(2)発展…アナトリアの(9)帝国領を奪って西進

a バルカン半島に進出→(10)(エディルネ)を首都とする(1366)

b バヤジット1世(在位1389~1402)

〔(11)の戦い(1396)でバルカン諸国とフランス・ドイツの連合軍を破る
アンカラ(アングラ)の戦い(1402)でティムールに大敗し、帝国は一時衰退

c (12)(在位1444~46, 51~81)

〔国力を回復、(13)を攻略、ビザンツ帝国を滅ぼす(1453)
(13)を首都とする→以後、(14)の呼称

d (15)(在位1512~20)

〔サファヴィー朝を破ってシリアに進出
(16)朝を滅ぼしてエジプトをあわせる(1517)
→両聖都(メッカ・メディナ)の保護権を得る
カリフ政治の後継者として(17)派イスラーム教を守護する存在となる

e スレイマン1世(在位1520~66)…最盛期

〔ハンガリーを征服し、(18)を包囲(1529)→ヨーロッパに脅威を与える
サファヴィー朝から南イラクを奪い(1534)、北アフリカにも支配を拡大
(19)の海戦でスペイン・ヴェネツィアの艦隊を破る(1538)
→地中海の制海権を得る

f セリム2世(在位1566~74)

〔フランス商人に居住と通商の自由をおおやけに認める(20)を与える(1569)
(21)の海戦(1571)でスペインなどの連合軍に敗れる
→しかし、17世紀末までヨーロッパとの力関係に大きな変化はおこらず

(3)帝国の統治政策

a (22)はイスラーム法に基づく政治をおこなう専制君主

b 州・県・郡にわかれる行政機構を整える

c キリスト教徒・ユダヤ教徒の共同体に自治を認め、イスラームとの共存をはか
る

d (23)を保持する騎士軍団と(24)軍団からなる軍制

e (24)はバルカン征服後、(25)教徒の子弟を集めた歩兵軍団
→(22)の常備軍として活躍